

プロジェクト課題活動実績

課題名：生産拡大に向けた集落営農法人等の経営安定

柳井農林事務所農業部 チーム員：阿字雄稔、藤原健、河村俊和、森江聖子、
吉賀千歌子、明石義哉、末富貴子

<活動事例の要旨>

南すおう地域では、農業振興計画に基づく生産拡大を目指しているが、この中核となる集落営農法人等の経営安定支援が喫緊の課題である。

そこで、集落営農法人が栽培する大豆、たまねぎ、キャベツ、アスパラガスに集中した生産拡大に向けた効率的な活動を実施するよう試みた。

今年度は、天候不順や病害虫の影響が大きく、大豆、たまねぎは目標に到達できなかったが、キャベツは、適期定植を実施することができ、共販出荷量は前年実績を上回った。

一方、集落営農法人とJAで設立を検討してきた共同出資会社は、平成29年3月に創立総会を開催し、法人間連携の強化による集落営農法人の経営安定を目指すこととなった。

1 普及活動の課題・目標

- ・南すおう地域では、関係機関が共通認識を持って作成した農業振興計画を基に生産拡大を目指している。しかし、平成26年産米の価格低迷等の影響で、生産の中核となる集落営農法人等の収入が減少しており、経営安定支援が必要である。
- ・そこで、本プロジェクトでは、集落営農法人が生産する大豆、たまねぎ、キャベツ、アスパラガスに対して重点指導を行うことにより生産拡大と法人の経営安定を図る。
- ・また、集落営農法人とJAの共同出資会社設立に向けた支援を行い、法人間連携強化による集落営農法人の経営安定を目指す。

2 普及活動の内容

(1) 重点品目の生産拡大に向けた体制整備

- ・水田フル活用ビジョンの具体的活動計画である「南すおう地域水田農業振興計画」の取組状況の進行管理を支援した。また同計画の2次計画作成を支援した。

(2) 経営体の生産安定に向けた技術と体制整備の組立

ア 大豆

- ・大豆栽培全法人を対象に研修会や個別現地指導等を通して適期作業指導を行った。
- ・平成28年産は、降雨による前作小麦の収穫遅延に伴い播種期が遅れ、夏季の少雨や9月以降の日照不足、収穫期の断続的な降雨の影響で、ほとんどの法人で適期作業を行うことができなかった。



大豆現地研修会

イ たまねぎ

- ・エコ 50 に取り組んでいるが、平成 28 年産は早い時期からべと病が多発したため、防除等の徹底を図り、できるだけ収穫量を確保するよう推進した。
- ・契約栽培協議では契約先との情報交換に同席し、次年産から早生品種も出荷できるよう支援した。
- ・集出荷貯蔵施設で前年度から行っている外部委託は、更なる人件費削減のため、中生品種以降で活用するよう助言した。また、施設の管理状況（温・湿度）を調査し、貯蔵施設の入口解放時間短縮の課題を把握した。
- ・既存栽培法人の作付面積拡大を推進した。

ウ キャベツ

- ・契約栽培協議について J A を支援し、平成 28 年産も前年産と同じ市場を通して契約販売することとなった。
- ・天候が好条件時に畝立て等を行うよう栽培法人に対して個別に具体的な作業スケジュールの作成や作業内容について現地指導し、適期定植を推進した。
- ・12 月～1 月収穫の品種・作型を検討するための品種試験を前年度に続けて実施した。



キャベツ現地講習会

エ アスパラガス

- ・ほ場巡回や管理のワンポイント資料を配布し、定期的な防除等を徹底指導した。
- ・新規就農者の個別訪問を月 2 回程度行い、栽培状況の確認と栽培管理を指導した。
- ・ロットを拡大するため、既存法人への増反希望の聞き取り等を行った。

(3) 就農・就業受入体制整備

- ・集落営農法人と J A の共同出資会社の設立に向け、コーディネーターと連携して、参加法人の要望を調査し、出資会社の事業内容を検討した。また、新規就業者確保育成のための研修方法等を提案した。
- ・単県事業を活用した共同利用機械導入を支援した。



KJ 法を使った課題整理（生産部）



集落営農法人への説明及び要望調査

(4) 集落営農法人等の経営安定支援

ア A 法人

- ・定例会で、各品目担当理事から作業実施状況等を確認し、情報共有化を誘導した。
- ・各品目の具体的作業等は品目担当理事と個別調整することとし、大豆では夏季の少雨対策や雑草対策、キャベツでは雑草対策や新品種実証試験を実施した。

イ B 法人

- ・農業大学校や地域内から新規人材が2名確保された体制における労働時間の把握を行った。また、定例会で新規就業者への研修実施内容の確認も行った。
- ・水稻や大豆等の低収改善のため、現地指導を交え技術向上支援を行った。

3 普及活動の成果

(1) 重点品目の生産拡大に向けた体制整備

- ・「南すおう地域水田農業振興計画」の2次計画案ができ、新たな目標に向けた推進体制が整った。

(2) 経営体の生産安定に向けた技術と体制整備の組立

ア 大豆

- ・播種と収穫時期の降雨による作業遅延及び9月以降の日照不足やカメムシ被害の影響が大きく、管内の平成28年産の単収は前年を下回った。また、収量・品質も前年を下回った。

イ たまねぎ

- ・平成28年産出荷量は全国的なべと病の多発等の影響で前年産の約1/2であった。
- ・契約業者は、平成29年南すおう産の100t販売を希望している。
- ・集出荷貯蔵施設については、施設の入口解放時間短縮の課題があることを把握できた。
- ・平成29年産作付面積は平成28年産と同規模であったが、平成28年産から新規に栽培を開始したD法人では面積拡大した。

ウ キャベツ

- ・8月の好天条件を利用し畝立て準備等を個別に推進したことにより適期定植ができた。
- ・平成28年産も前年と同じ市場を通して契約販売を行った。
- ・平成28年産の共販出荷量は前年を上回った。

エ アスパラガス

- ・平成28年産共販出荷量は概ね前年並の実績であった。
- ・指導に基づく適正な防除や栽培管理が概ね実践できた。
- ・エコ50の取り組みも特に問題はなく、継続して取り組む。
- ・既存栽培法人から作付拡大希望があり平成29年度単県事業でハウス建設を要望した。

(3) 就農・就業受入体制整備

・新規就業者確保育成のための受入や研修方法等を提案したことにより大まかなイメージができ、平成30年度からの受入に向けた検討の素地が整った。

・南すおう管内の17の集落営農法人とJA南すおうが共同出資する「アグリ南すおう(株)」が平成29年3月3日に設立された。



アグリ南すおう(株)創立総会

(4) 集落営農法人等の経営安定支援

ア A法人

- ・理事間の情報共有ができており、大豆や野菜等の作業も概ね計画どおりに実践できた。

イ B法人

- ・濃密な現地指導により大豆や小麦等の作業精度が向上し、圃場ローテーションや土壌改良資材の施用が実施されるようになった。土壌改良資材の投入により、小麦の収量が法人の年度当初目標を達成した。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 重点品目の生産拡大に向けた体制整備

- ・農業振興計画の取組状況の進行管理の実施と関係機関での情報共有の推進

(2) 経営体の生産安定に向けた技術と体制整備の組立

ア 大豆

- ・各法人の目標設定と単収向上対策の提案
- ・各法人に合わせた個別栽培技術指導による適期作業の実施支援

イ たまねぎ

- ・機械化一貫栽培の推進
- ・集出荷貯蔵施設の集荷体制や乾燥貯蔵管理の見直し提案
- ・セル苗育苗管理の徹底や高温・多雨対策実施による定着支援

ウ キャベツ

- ・契約栽培の販売方針検討や出荷計画作成支援
- ・品種ごとの施肥や防除体系の作型検討
- ・法人毎の適期作業の徹底

エ アスパラガス

- ・新規就農者や法人担当者等を対象とした勉強会や合同巡回の実施による栽培技術指導
- ・平成 29 年度事業導入ハウスの仕様等計画作成支援と次年度事業実施に向けた調整等によるロット拡大支援

(3) 就農・就業受入体制整備

- ・共同出資会社の生産部活動や新規就業者受入体制の確立支援

(4) 集落営農法人等の経営安定支援

ア 管内各法人

- ・各法人の目標確認と設定及び目標達成に向けた実施支援

イ A 法人

- ・各品目の課題解決のための取組提案と実施支援

ウ B 法人

- ・繁忙期の労働力確保に向けた労働力把握調査等活動支援
- ・水稻、麦、大豆の目標達成に向けた栽培技術指導

エ C 法人

- ・各品目の作業実施計画作成や実施状況把握支援による作業体制の確立
- ・水稻や野菜の個別栽培技術指導による適期作業実施支援